

# 国際航空におけるカーボンニュートラルに向けた SAF導入による空港会社の役割と関係者の連携について

**成田国際空港株式会社**

**給油事業部**

**部長 田代 敏雄**



- 成田国際空港会社（NAA）は**国際拠点空港としての役割を果たし役割グローバルな航空ネットワークの発展に貢献する、世界トップレベルの空港を目指しています。**
- 国際間の往来の本格再開を見据え、次世代に向けた**“持続可能な”空港づくりを進めています。**そのため脱炭素社会の実現を軸として、2050年度に向けた取り組みの方向性を示す**「サステナブルNRT2050」を策定(2021年3月)**



# 「サステナブルNRT2050」におけるCO2削減目標

✈ 空港運営会社のネットゼロや、ステークホルダーを含む空港全体の数値目標を掲げるのは、国内空港初

## 2050年度目標（長期）

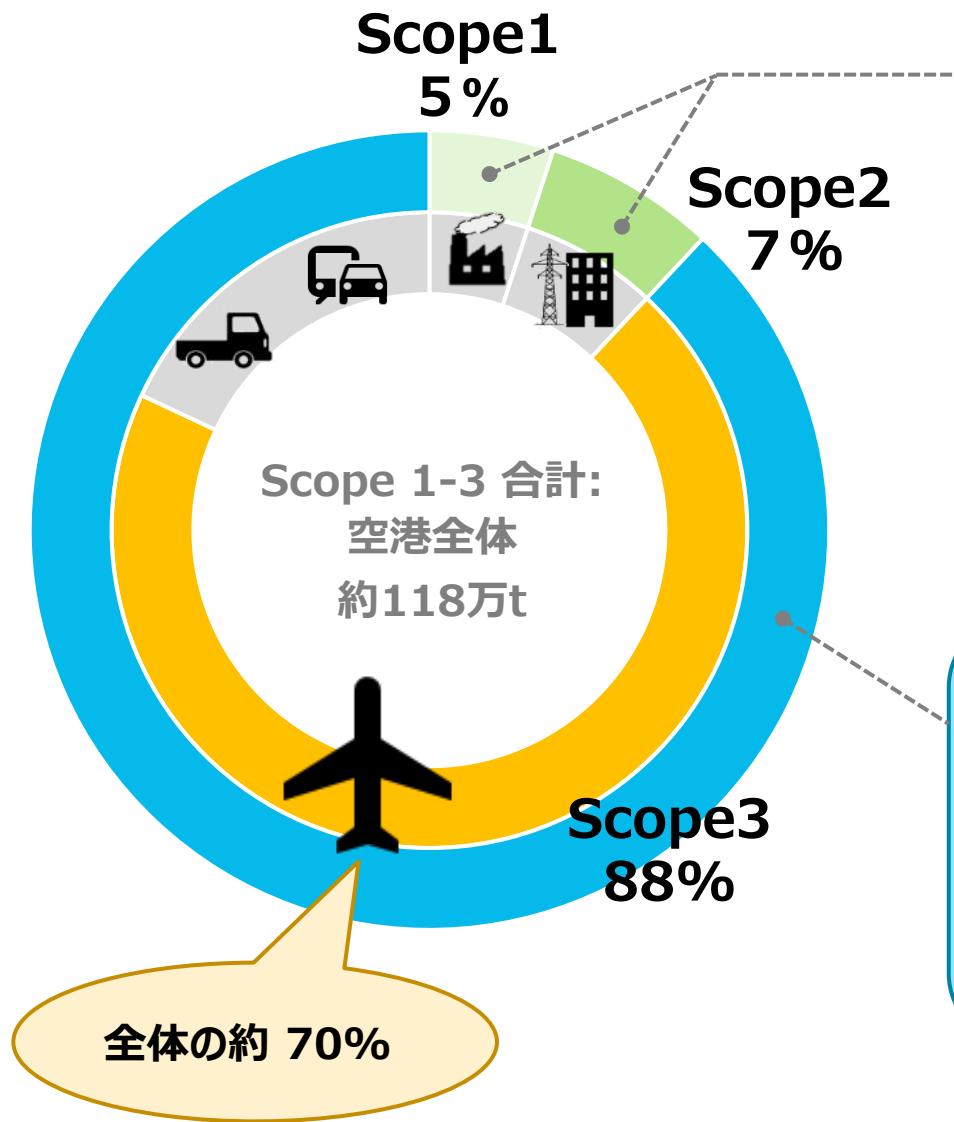
- NAAグループが排出するCO2をネットゼロにします
- 成田空港から排出されるCO2を2015年度比で50%削減します

## 2030年度目標（中期）

- NAAグループが排出するCO2を2015年度比で30%削減します
- 成田空港から排出されるCO2を2015年度比で発着回数1回あたり30%削減します
- NAAの「ネクストアクション」を定めてCO2削減を推進します
- 更なる機能強化における環境負荷低減の取り組みを推進します



# 成田国際空港におけるCO2排出量（2019年度）



## NAAグループ

SCOPE1 + 2 排出量：約14万t（12%）

Scope 1



燃料の燃焼

Scope 2



電気の使用

## ステークホルダー

Scope 3 排出量：約104万t（88%）



航空機



作業用車両



アクセス・通勤

# 空港におけるカーボンニュートラルを実現するためには・・・

空港におけるカーボンニュートラルを実現するためには、自社の取組はもちろんのこと、特に空港関連会社の取り組みが重要（SCOPE3の比率が約90%）。

## 1. 航空機の運航に係る脱炭素化

→ 低燃費航空機の導入、地上走行の改善、GPU利用促進※、**SAF導入**

## 2. 空港内車両（GSE）及び空港へ出入りする車両の脱炭素化

→ 車両の低燃費化、**使用燃料の転換（バイオディーゼル等）**

※ GPUとは駐機中の航空機へ空港施設より電力及び空調を供給する設備。



# SAFについて（CORSAIAによる規制）

1992年以来、気候変動に関する国際的な対策は**気候変動枠組条約（UNFCCC）**にて実施

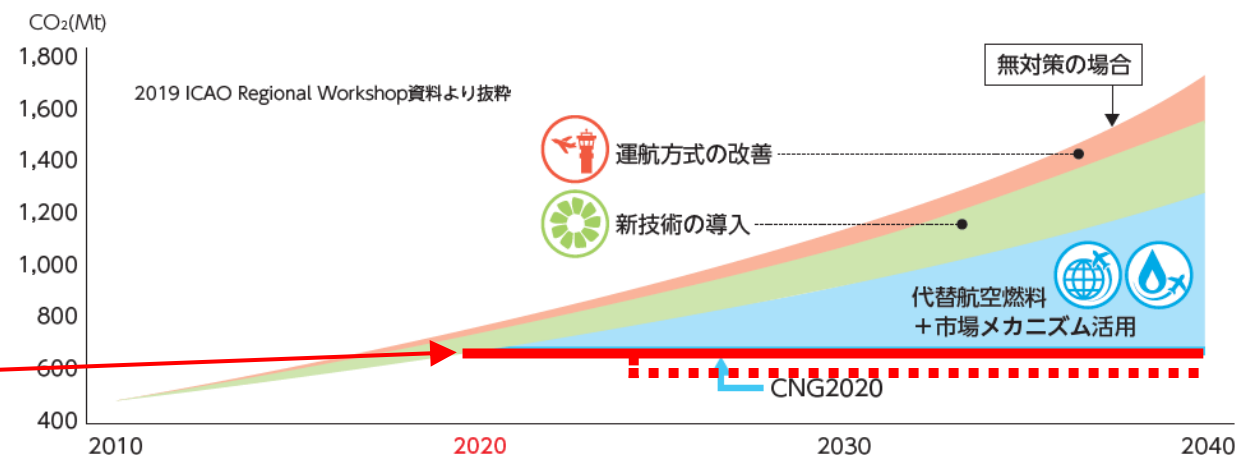
- このうち、**国際航空分野**における温暖化対策については、**ICAO（国際民間航空機関）**にて検討することを決定
- 2016年、ICAOは市場メカニズムを活用した温暖化対策**CORSIA**の実施を決定
- 2018年、ICAOはCORSAIA制度詳細を規定したシカゴ条約第37条に基づく国際標準・勧告方式を策定

## CORSAIAとは

Carbon **O**ffsetting and **R**eduction **S**cheme for **I**nternational **A**viation

- (1) CO<sub>2</sub>排出量の算定・報告・検証を求めるとともに、
- (2) **2021年以降の国際航空分野全体の排出量を基準排出量\*と同レベルに抑えることを求める制度。**
- (3) 基準排出量を上回るCO<sub>2</sub>を排出する場合は、下記の対応が必要。
  - (a) **バイオジェット燃料（SAF）の導入**
  - (b) **炭素クレジットの償却**

\*2019年の排出量を基準とする  
ただし、2022年10月の総会で、2024年より2019年排出量の85%とすることが決定



- ✦ ICAOでは2050年までに二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の排出を実質ゼロにする長期目標を採択
- ✦ **排出量削減対策として、SAF導入が最も削減寄与度が大きくなると想定**

**航空業界における脱炭素化にSAFの導入促進は必要不可欠**

NAAは空港管理者として**脱炭素社会を実現し、国際航空ネットワークを維持・拡大**することを目的に、国内でSAFを安価で安定して供給できるよう、航空会社に向けたSAF導入を進めていきます

## 【成田国際空港のSAF導入促進に向けた戦略】

1. 成田国際空港で航空燃料を給油すると、一定割合のSAFが含まれていることとする。
2. 航空会社にある程度のSAFを必ず使用してもらえべく合意形成を図る。
3. 空港会社がSAFを導入した航空会社ヘインセンティブ等の支援を行う。
4. 国産SAF導入促進を最優先とする。また、国産SAF普及までは輸入SAF導入を先行して進める
5. 航空会社におけるSAF利用拡大を図るため、国産SAF、輸入SAFの双方を継続して導入できる体制を構築する
6. 今後の空港周辺におけるSAFの地産地消をめざす。

## ✦ 輸入混合済SAFの受け入れ（2020年10月～）

- 既存施設を利用し、輸入された混合済みSAFの受け入れを実施。
- 通常のジェット燃料と同様の取り扱いによりハイドラント施設から航空機へ給油。

## ✦ 実証製造された国産SAFの受け入れ（2022年9月～）

- SAFの陸上搬入施設を整備を実施。
- 少量の実証製造されたSAFを受け入れ、ハイドラント施設から航空機へ給油する体制を構築。

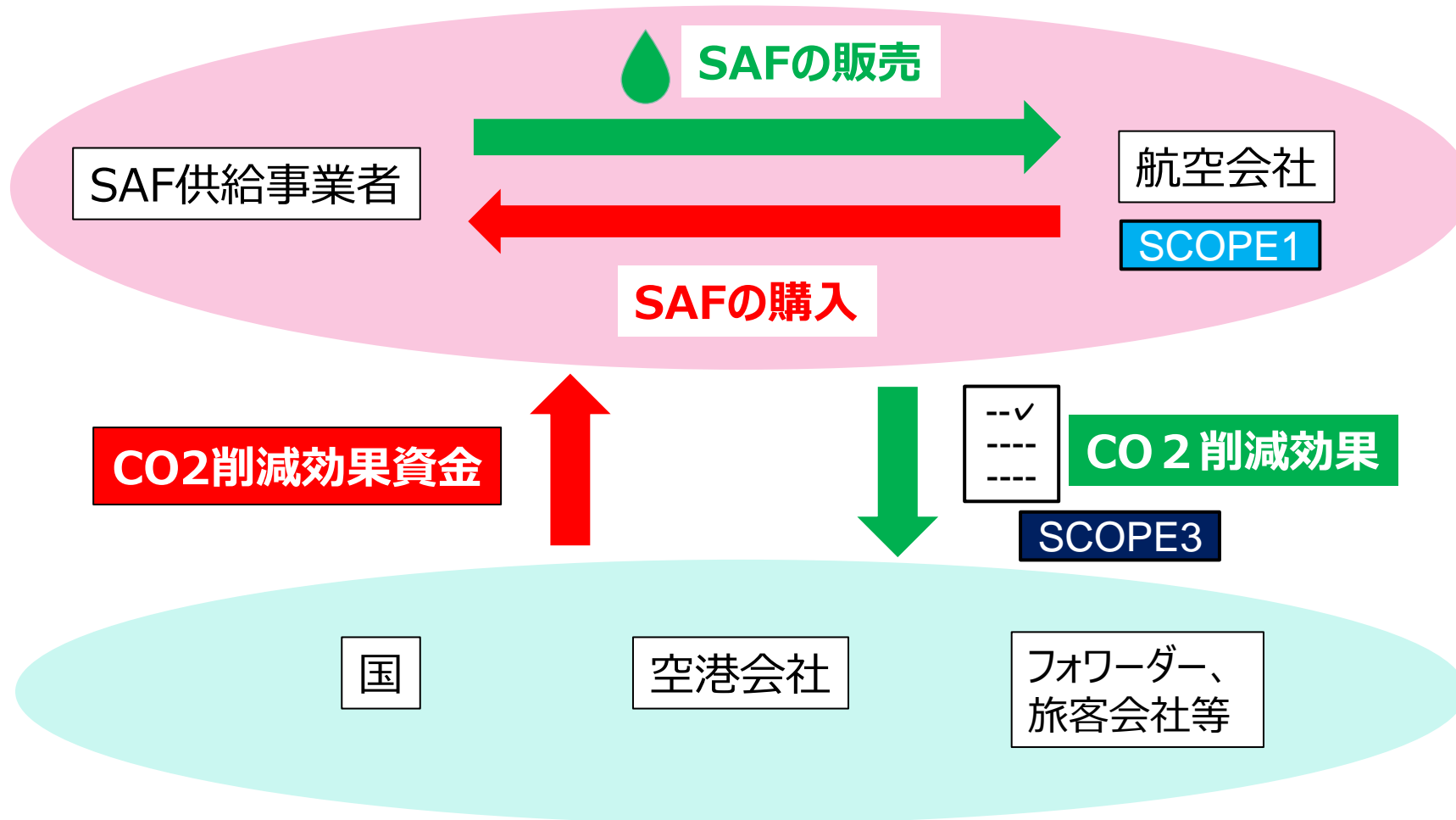




- **SAF官民協議会を活用して、関係者が連携してSAF導入促進スキームを構築し、航空機の運航における脱炭素化を実現します。**
- **航空会社のSAF導入を積極的に推進するために、空港会社として実現可能なインセンティブ制度の検討を進めていきます。**
- **航空会社がCORSLIAにおけるオフセット義務を果たすとともに、航空関係事業者がSAFによるSCOPE 3削減の環境価値を享受できるスキームの構築を進めていきます**
- **SAFの普及促進を図るため、そのコストを航空関係事業者で分担する手法についても検討を進めていきます。**

**今後、NAAは航空関係者（国、航空会社、SAF供給事業者、フォワーダー、旅行会社等）と連携し、空港に係る関係者が互いにSAFの環境価値を享受できる手法の構築を目指します**

# SAFによる環境価値（SCOPE3）の享受のためのスキームイメージ



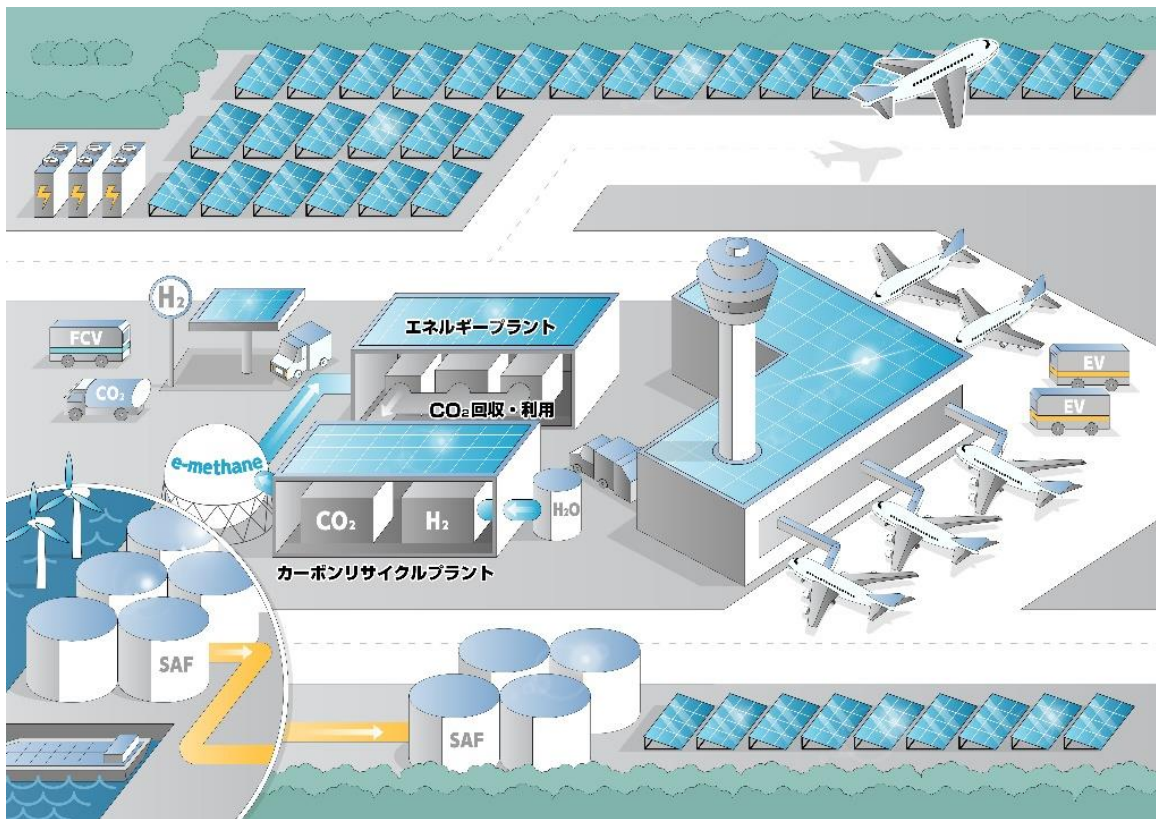
**SCOPE3の環境価値を必要とする企業が  
環境価値を享受できるスキームを検討し、SAFの普及促進につなげる**

**Green Energy Frontier は、NAAと東京ガスの合併会社として、2023年4月1日より事業を開始します。**

**成田国際空港へエネルギー（電気・熱）を供給するとともに、空港に供給するエネルギーの2050年脱炭素化に挑戦します。**

項目	内容
会社名	株式会社Green Energy Frontier
所在地	千葉県成田市
事業開始日	2023年4月1日
資本金	1,827,500,000円
出資比率	NAA：50%、東京ガス：50%
代表者	未定（3月に開催する株主総会で決定）
事業内容	①電気・熱の安定供給を担うエネルギー供給事業 ②空港の脱炭素化事業





水素やカーボンリサイクルなど  
次世代脱炭素モデル導入



太陽光発電設備設置イメージ  
(最終規模180MW)

ご清聴ありがとうございました



**Narita Airport**

Connecting Japan to the World